

2024/8/24 開催 いけんひろば
～みんなのアイデアでヘイトスピーチをなくそう！～
いけんのまとめ 対面回

【対面】1班（中学生2名・高校生世代2名）	2
【対面】2班（中学生1名・高校生世代2名）	6
【対面】3班（高校生世代3名）	11

（注）本資料は、いけんひろば参加者個人のご意見を逐語的に記載したものです。本資料の記載内容は、政府としての見解や評価ではありません。

なお、発言者個人の特定や、特定の個人や団体等への直接的な批判につながる恐れがある発言については、発言の趣旨を改変しない形で修正しています。

【対面】1班（中学生2名・高校生世代2名）

1. ヘイトスピーチが行われる背景

○ヘイトスピーチはなぜ行われるのか、また、なぜなくなるのか、思う理由を教えてください。

＜ヘイトスピーチを見た経験＞

- 靖国神社の周辺で見たことがある。
- 障がい者への差別を聞いたことがある。
- このいけんひろばに参加して初めて知った。

＜ヘイトスピーチのイメージ＞

- 黒人と白人の間で起きているイメージ。
- 差別的で相手を見下すようなイメージ。
- コロナ禍に多く行われたイメージ。感染が広まらないように、日本や都道府県内外に「来るな」または「行くな」といったことが言われていた。
- 外国人に対して暴力や危害を加えるイメージ。
- 偏見が強いイメージ。
- 固定概念にとらわれているイメージ。
- 人として尊重されるべきことが侵害されているイメージ。

＜ヘイトスピーチが行われる理由＞

- 国によって文化は全く違うので、外国人の振る舞いが日本人にとって合わないと感じることがあると思う。太平洋戦争の際に中国の人たちが日本に来た歴史的背景から、靖国神社に落書きをしたりして、中国人イコール処理水反対というイメージがついてしまう。そこで、中国人という人種でイメージが固まって、ヘイトスピーチに結びついてしまうと思う。
- 言語の違いによって、コミュニケーションが不足しているかもしれないと思った。
- 「この国の人は怖い」という思い込みによって嫌だと思ってしまうのかもしれない。
- 固定観念が持たれ続けることでヘイトスピーチにつながると思う。
- メディアでは、悪い話題が注目を引きやすいので、悪いことばかり報道されていると思う。誰もいい部分があるはずだが、それを知らないし、悪い面ばかりを知ってしまう。
- 言語が通じず、相手の気持ちや優しい面が分からないことで、ヘイトスピーチが続いてしまうのではないか。
- ヘイトスピーチする側にもされる側にも、相手に対する悪いイメージをずっと変えない人がおり、その人たちはヘイトスピーチの要因だと思う。自分が通う学校にもそういう人はいる。その人たちが変わらないのは、その人の心次第だと思う。

＜ヘイトスピーチをなくす方法＞

- 外国人と関わる機会を増やして話していけば、ヘイトスピーチを減らせるのではないか。
- お互いの文化や歴史的な背景をよく知ることでヘイトスピーチを減らせるのではないか。
- 教育が大事だと思う。生徒は聞くだけでなく意見をだしあいアウトプットすることが大切だと思う。

2. 現在行っている取組について

○背景を踏まえ、法務省が実施しているヘイトスピーチの解消に向けた啓発活動（ポスター・啓発マンガ・啓発動画・SNS発信等）について、良いと思う点・もっとこうの方が良いと思う点を教えてください。

＜啓発マンガ「私たちの身近にあるヘイトスピーチ」＞

- マンガは誰でも読みやすい。
- ヘイトスピーチの具体例が書いてあるから、ヘイトスピーチがどんなものか分かった。
- 「人の心の痛みを想像するということが差別をなくす第一歩」というせりふが分かりやすく良いと思った。
- 啓発マンガはどこで配っているのか。
 - 法務省回答：身近な場所だと学校で配っているが、部数は多くはない。ほかには、全国の法務局に備え付けている。ほかにも、啓発イベントやスポーツの試合で配ることもある。
- マンガを配られても興味がなかったら紙くずになってしまう。読んでもらえるかは読む人次第で、ヘイトスピーチを解消しようと言われても響かない人には響かない。ヘイトスピーチをする人の心を変えるためのアプローチが必要なのではないか。
- 学校でヘイトスピーチについて勉強した後に、このマンガを配布したら「授業で習った」ということで読むかもしれない。ヘイトスピーチを知らない人が多いので、知るところから始めるのが良さそう。
- 表紙が怖い印象で手に取りづらい。

＜ポスター＞

- 「ヘイトスピーチを許さない」と書いてあるが、何をしたらヘイトスピーチをなくせるのか分からない。

＜法務省が実施する啓発活動のアイデア＞

- ヘイトスピーチを受けた人にどういう気持ちになるかを話してもらうのどうか。ただ、ヘイトスピーチを受けた人のトラウマがひどくなってしまうことが心配。
- スタジアムでの活動はいいと思う。駅での啓発は、風景の一部になってしまい視線がいかない。
- そもそもヘイトスピーチが何か知らない人もいるが、啓発資料のスペースには限りがあって全部書いていたら細かすぎて伝わらないから難しい。
- ヘイトスピーチを知らない子ども・若者が多そうなので、「ヘイトスピーチを許さない」ではなく「ヘイトスピーチってなに？」というキャッチコピーにして、詳しくは二次元バーコードを読み込んでもらうのがいいのではないか。
- 文字が大きく書いてあると見やすいとは思いますが、ただ見るだけで素通りしてしまうかもしれない。
- 影響力のあるキャラクターや人とコラボレーションすれば、注目を引いて素通りされないと思う。
- 音声付きが良いと思う。有名人がヘイトスピーチについて話す動画は耳で聞けるので歩いていても気がついてもらえそう。
- 道徳の授業に導入すれば、手っ取り早くヘイトスピーチについて知ってもらえると思う。
- ヘイトスピーチについて YouTube で知った。
- ヘイトスピーチについては学校のロングホームルームで、誹謗中傷とセットで知った。
- 学校の授業は聞かないといけないから、授業で扱えばヘイトスピーチについて覚えると思う。
- スマートフォンで動画が流れてきたほうがパツと見る。Instagram や YouTube ショートで動画を出すのがいいと思う。

- 電車の中で見た広告を覚えていないように、興味のない情報は見ても認識しないと思う。

<外国にルーツのある人に対する差別について>

- アメリカでは、アジア人・黒人への差別が激しいらしい。自分の周りには、中国にルーツがあるが、日本語を流ちょうに話すクラスメイトがいる。その人は「中国人」というあだ名で呼ばれている。中にはそういうことを気にする人もいると思う。
- 海外では黄色人種が差別されていると聞いたことがある。初めて聞いたときはびっくりした。
- 肌の色も、顔立ちも、文化も違って、どこから来たのかも分からない「自分と違う人」を排除したいという気持ちは分からなくもないが、行き過ぎることが良くないと思う。

3. 今後の取組について

○背景を踏まえ、ヘイトスピーチを解消するために、今後、国・地方公共団体は、それぞれどのような取組を行っていくことが必要だと思いますか。

<ヘイトスピーチをなくすべき理由>

- 誰でもいじめや差別をされると悲しくなるから。
- お互いに攻撃し合うことに繋がるから。攻撃をされて何もしないのは辛いので、攻撃し返してしまうと思うことで、結果的に大きなめごとにもつながると思う。
- 「ヘイトスピーチをやっている国」という印象がついたら、外国人が日本に来なくなるから。日本人が海外に行ったときにもヘイトスピーチを受ける側にもなるかもしれない。
- ヘイトスピーチをなくせば、いろいろな国の人と仲良くなり、交友関係が広がり、情報も広がっていくから。

<ヘイトスピーチをなくす方法>

- お互いの文化を理解していけば良い。
- お互いの文化を学べるフォーラムを開催して色々な人と交流する。
- 国民全員で話し合うのは難しいので、北方領土問題の話し合いのように、互いの代表者が話し合い、その内容を国民に周知する。
- 来日者が多い国の文化を学んだり、日本の文化を伝えたりする。
- 色々な国の人と話せると楽しそう。二国間だけでなく、複数の国の人が話すと学べるが増えそう。
- 日本に来る外国人に簡単な日本語を覚えてもらうと良いと思う。日本人全員が外国の言語を覚えることは難しいし、少数が大勢に合わせるの方が楽だと思う。
- 学校の授業で、歴史だけでなく、今の各国の状況を扱うのが良いと思う。今のことも学べたら考えが変わるのではないかな。
- ALT（Assistant Language Teacher：外国語指導助手）との交流を増やしていくと、「○○人（特定の国や地域の人）は怖い」という考えを減らせると思う。
- メディアには、表現の自由はあるが、悪いことだけでなく良いことも広めていく責任があると思う。
- 自国だけでなく、相手の国も関わるから難しい問題だと思う。どの国でも取り組んだ方が良いと思う。
- ヘイトスピーチをしている人から理解を得ることが必要だと思う。ヘイトスピーチの原因になっている内容ごとに解決策をインターネットに掲載していくと良いと思う。

<外国人と文化の違いを感じたときにどんなアプローチができるか>

- 他国の伝統的な文化を体験したらいいのではないかな。
- 難しいと思うが、「郷に入っては郷に従え」ということわざのように日本の文化に合わせてほしい。
- SNS で外国文化との違いを知ることができる。韓国文化を発信しているインフルエンサーの記事を読んで、日本文化との違いを知ることができたことがある。
- まずは興味を持ってもらうために、総合や道徳の授業で取り上げることが必要だと思う。
- 自分は何がヘイトスピーチにあたるか知らなかったので、ヘイトスピーチについて YouTube でもっと知ることができたら良いと思った。
- 物事を様々な方向から客観的に見ることで、意識が変わるのではないかなと思う。情報は作る人と受け取る人の感じ方で変わってしまう。悪いことは目につきやすいと思う。

<国や地方自治体が行うべき取組>

- 学校の体育館に集まって、薬物やスマホの使い方について講演を聞くことがある。同じように、学校に法務省の担当者に来てもらい、話してもらうのがいいのではないかな。
- 人を対面で集める講演会は参加人数が限られてしまう。SNS を使えば多くの人が見られて良い。YouTube よりも Instagram や TikTok で広告を流すとより多くの人に見てもらえると思う。

<法務省による SNS 発信>

- X では「ヘイトスピーチを許さない」を打ち出して、Instagram や TikTok ではヘイトスピーチを知ってもらうための広告が良いと思う。
- まずヘイトスピーチに興味を持ってもらうことを目的にした広告が良いと思う。
- 実際のヘイトスピーチの状況が伝わる画像や映像が流れてきたら見るかもしれない。
- 軽めの動画やマンガで具体例があると良い。また、詳細説明するページへのリンクが貼ってあると良い。

<その他ヘイトスピーチについて思うこと>

- ヘイトスピーチは自分たちで解決できないし、ヘイトスピーチの対象になる相手の状況も考えなくてはいけない。これまで築いてきた文化もあるので、簡単に結論が出せるものではないと思う。
- いけんひろばでヘイトスピーチについて知れて良かった。ヘイトスピーチがなくなったら良いと思った。ヘイトスピーチをしていない人でも、外国人を少し怖いと感じることはあると思う。心の部分であり、多くの人が感じるからだから、どうしたらよいか難しかった。
- ヘイトスピーチについて多くの人に知ってもらえると良いと思った。ヘイトスピーチは減らしても復活するものだと思う。減らす方法を考えるのは難しいと思った。
- ヘイトスピーチについて、今後自分がどのように関わるか考えるための参考になった。国に対するイメージを変えることはできないから、ヘイトスピーチをなくす対策を考えるのが難しいと思った。

以上

【対面】2班（中学生1名・高校生世代2名）

1. ヘイトスピーチが行われる背景

○ヘイトスピーチについて聞いたことがありますか。

- ヘイトスピーチ解消法のニュースを聞いたことがある。
- あまり聞いたことがない。
- Q&A サイトのヘイトスピーチに関する書き込みで知った。デモを行っている印象がある。
- テレビで見るとモザイクがかかっているがよく見えないが、スピーカーを使って叫んでいるイメージ。
- 過激なイメージをもっている。
- 最近、かつて在日韓国人向けの学校だった京都国際高校が甲子園で優勝したことについて聞いた。理事も韓国人でハングルを使っている学校だが、甲子園で優勝したことでニュースになっていた。
- SNS で話題になっていることを聞いた。
- 甲子園の優勝校は校名に「国際」という文字がついているから、ニュースにすることでもないと思った。

○ヘイトスピーチはなぜ行われるのか、また、なぜなくなるのか、思う理由を教えてください。

- 中国製アプリはプライバシーの関係などで危ないと言われている。そのイメージから、中国人も危ないと言われることと同じだと思う。中国には国家情報組織法という中国政府に個人情報を開示しないと罰金などの法律がある。そのような中国の体制に関する偏見があるので中国人も危ないとみられるのだと思う。
- なんとなく怪しいと思ったり、ある一人の〇〇人が何か悪いことをしたせいで〇〇人全体が悪いとみなされたりすることがある。
- 韓国人のマナーが悪いとされることがあるがそれも同じことだと思う。
- 大勢の人の中の少数派だと攻撃の対象になりやすいと思う。
- いじめも同じで、在日韓国人が2023年時点で約43万人で、日本国民は約1億人いる。在日韓国人は少ないからいじめの対象になりやすいのだと思う。学校で友達が多い人は孤立しないことと同じ。
- 自分と違う少数派がいると不安と感ぜられてしまうと思う。同じような人がいっぱいいる方が安心することとは自分もわかる。学校だけではなく、インターネットでも同じように少数派が批判されて孤立することが起こっているので、少数派への批判が静まりづらいのだと思う。学校だったら先生が注意したり、転校したりすればなんとかなるが、世界規模だとそういう風に静まらないと思う。
- 以前、同級生に日本に住んでいる外国人がいた。その子が何か失敗したときに、後付けで「外国人だから」と言われていた。少数の人だからそのようなことが言われるのだと思う。
- 自分もあまり考えずに突発的に「外国人だから」というようなことを言うことがある。
- 昔オーストラリアから帰化した人がいたが、その人には英語を教えてもらっていた。これは少数の人を受け入れた良い例だと思う。
- アメリカからの帰国子女で、アメリカでは日本人学校に通っていた子がいた。その子は「他の人より英語を話せる」くらいの印象で、特別な見られ方はしていなかった。

- ヘイトスピーチ解消法はいじめ防止対策推進法と同じで、骨抜きで内容がなっていない。いじめ防止対策推進法はいじめをやめよう、などとただ書いてあるだけ。2016年につくられたヘイトスピーチ解消法も同じで、ヘイトスピーチをした人に対する罰則がない。

○ヘイトスピーチはどうしたらなくなると思いますか。

- オープンソースで暴言検知 AI というのが存在した。広辞苑をもとに学習させると、暴言を検知したときに「暴言です」と知らせてくれる。ヘイトスピーチのような暴言は無意識に出るので、本人に対して暴言を話しているということを感じさせることが大事だと思う。
- 無意識にヘイトスピーチのような発言をしてしまうということはあると思う。一人ひとりが持っている偏見はあるので、思わず言ってしまう。根本的に持っている偏見やイメージを一からなくしたり、変えたりしないといけない。表面的に「言うてはいけない」と伝えるよりも、持っているイメージ自体を変えないといけないと思う。
- 「ヘイトスピーチを言うてはダメ」というだけでは意味がなく、ヘイトスピーチを受ける体験をしないといけない。体験すれば意識が変わる。一部の人は変わらないかもしれないが、変わることもあると思う。
- 社会の教科書で南アフリカ共和国にアパルトヘイト博物館があると知った。そこでは入場後、ランダムに黒人と白人の扱われ方に分かれるという疑似体験ができるそうだ。そうした体験は効果があると思う。
- 体験しないと辛さがわからない。辛さがわからないからヘイトスピーチを行うのだと思う。
- 人権講演などで学校に講演者が来てくれることがあるが、そのときにヘイトスピーチが何かを教えてくれるよと良いと思う。ヘイトスピーチと言葉だけ聞いてもどういものだろうと思ってしまいそう。「こういうことがヘイトスピーチにつながるよ」と伝えると良い。
- 原爆体験の語りのようにヘイトスピーチでも体験者の語りなどを行うと良いと思う。

2. 現在行っている取組について

○背景を踏まえ、法務省が実施しているヘイトスピーチの解消に向けた啓発活動（ポスター・啓発マンガ・啓発動画・SNS発信等）について、良いと思う点・もっとこうした方が良いと思う点を教えてください。

<法務省の啓発活動全般について>

- 専門用語は使わないでほしい。ヘイトスピーチもある意味専門用語である。「差別」などわかりやすい言葉を使った方が良いと思う。
- 長い文章でなく絵やキャラクターを使ってマンガ形式でまとめると、「見てみよう」という気持ちになる。若い人にも読みやすいと思う。
- Q&A形式は大人向け。小学生・中学生くらいの子が見て分かりやすいものがあると良い。高校生は街中よりもインターネットの方がヘイトスピーチを見る場面が多くなる。対象によって、わかりやすい資料や目に留まる場所が違うので、小学生、中学生、高校生、大人向けなどのように対象を分けて資料を作成し、学校や市役所などの人が集まる場所に置くと良いのではないかな。
- 省庁はテンプレートで文書を作っていることが多いので、テンプレートを廃止すれば良いと思う。
- ハローキティのような有名なキャラクターを文書に使うと目を引くと思う。

- 見ている人に問いかけをする疑問型のポスターなどにするのは良いと思う。「あなたは〇〇ですか？」というような形式がよさそう。

- 国民の25%の人しかヘイトスピーチを知らないという調査があったようだ。

<啓発パンフレット（マンガ）について>

- パンフレットはストーリーが感じられないと思う。いきなり説明もなく「人権擁護委員」という言葉が出てくるが、何のことがわかりづらい。ヘイトスピーチが何か、ということはまとまっていてわかりやすいと思った。ただ読んでくれるかという点で難しそう。ヘイトスピーチがなにか分からない人には無視されてしまいそう。
- パンフレットは漢字が難しく、小学生向きではない。中高生から読める内容である。以前子ども白書を読んだときにも思ったが、国の文書は硬い文書になりがちである。
- 同じ意見である。国の文書は硬い文章が多くて身近に感じられない。絵柄も政府がよく使っている硬めのテイストなので、絵柄も若者がよくみるようなやわらかいテイストが良いと思う。

<ポスターについて>

- 人間の情報の8割は耳から入ると聞いたことがあるから、ポスターは全然意味がないと思う。音声が出るポスターなら良いが、そういうポスターではないただのポスターは意味がないと思う。
- 法務省のポスターは見たことがなく、ヘイトスピーチという言葉自体あまり知らなかった。授業でヘイトスピーチについて扱ったり、インターネットでみんなが触れられるようにしたり、なるべく色々な人が知られるようにイベントで扱ったりすると良いと思う。
- ポスターは見た人に問いかけるような、気づかせてくれるような工夫をすると「自分もヘイトスピーチをしているかも」と見た人に感じさせられて良いと思う。
- 「ヘイトスピーチを許さない！」という言葉は、「ヘイトスピーチが何か」を知っている前提で作られている。ヘイトスピーチとはそもそも何かについてわかるポスターだと良いと思う。
- ポスターはヘイトスピーチがあることを前提にしているので、見た人がヘイトスピーチをしていると決めつけているように見える。

<インターネット上での啓発活動について>

- 高齢者はSNSを見ないので、SNS上では特に若者に訴えかけるのが重要だと思う。新聞も発行部数が減っているので、啓発や発信はインターネット広告を使うのが良いと思う。
- ヘイトスピーチに関する政府広報はニュースサイト等のトップに出てきているので、目に留まりやすいと思う。インターネットは自分が興味のあるコンテンツや広告などしか出てこない仕組みになっているのでインターネットで広告などを載せても、もともと興味を持っていないと出てこないと思う。
- 法務省職員が総出でヘイトスピーチに関して検索したらインターネットでのヘイトスピーチに関する情報の出やすさも変わるかもしれない。

3. 今後の取組について

○背景を踏まえ、ヘイトスピーチを解消するために、今後、国・地方公共団体は、それぞれどのような取組を行っていくことが必要だと思いますか。

- いじめ防止対策推進法やヘイトスピーチ防止法は「やめましょう」としか言っておらず罰則規定がないので罰則規定を設ける必要がある。ヘイトスピーチの取り締まりをどうするかは警察に考えてほしい。
- 行政だけでなく民間企業がすることもあと思う。部落差別に関する講演会で聞いたが、Q & A サイトなどのベストアンサーの半分は差別的な内容になっているそうである。せっかくヘイトスピーチに興味を持って調べた人がいても、Q & A サイトではそうした差別的な内容に触れてしまうことになる。インターネットのプラットフォーム提供企業も正しい情報を伝えていく取り組みをしていく必要があると思う。
- ベストアンサーを決めるのは質問者なので、誤った情報が選ばれることもある。インターネット上の回答者には出典を必ず示してもらうなどの工夫をした方が良いと思う。
- SNSによっては投稿に正しい補足情報をつけられる。そうした取組をしていくことも有効かもしれない。
- 新しい知識を Q & A サイトから得ると誤った知識を得る可能性がある。回答が 1 件しかなかった場合、差別的な内容をベストアンサーにしないといけないこともある。国がパンフレットや講演会で正しい知識を伝えるようにする方が良い。X のコミュニティノート（誤解を招く可能性のあるツイートに対して、ユーザーが背景情報を追記する機能）は一般の人もつけられるものだから、信頼できる国の機関が誤った情報に対する警告や正しい知識をつけられるようにするのが良いと思う。
- ヘイトスピーチに関する専門家として、回答者に法務省も参加したら良いと思う。
- 若者はメディアでは SNS 以外には興味がない。若者で新聞を読んでいるのは 3 % くらいと聞いたことがあるので、紙で発信する必要性は薄いと思う。紙での発信はなくし、インターネットでの発信にした方が若者には伝わると思う。
- せっかく良いポスターをつくっても気づかなかったり、見てくれなかつたりする。もう一工夫できると良いと思う。
- キャラクターやタレントとコラボしたり、ひねりのあるポスターにしたりするとバズる可能性があるので、そうした工夫ができると良いのではないかな。
- インパクトのある広告が良いと思う。
- 近所の駅では駅の IC カードをタッチする部分に広告を出しており、すごく目を引くと感じた。あとは駅の階段に広告を掲示すると多くの人に見てもらえそうに思う。
- ある会社の社長の X では「写真を明るくしたい」というツイートが非常に多くのインプレッション数を獲得していて、さらにリポストされることで非常に多くの人に見てもらえていたようだ。
- ヘイトスピーチのように政治的な内容の広告やポスターより、飲酒運転や電車のマナーへの注意喚起のような政治的でない広告の方が頭に入ってきやすい。
- インパクトのある広告の例だが、自動車学校の広告で「あなたは死角にいます」といった広告があり、相手にはと気づかせるような内容で興味を引いた。
- 「あなたは〇〇していませんか？」というような見た人に問いかけるような文章をつけることで、興味を持った人がクリックしてくれるようになると思う。

- YouTube は広告ブロッカーというツールがあるので、広告が目に入らない人もいるかもしれない。例えば「あなたは犯罪者です」のような文字があると気にはなると思う。本当の意味で犯罪者でないのに犯罪者と思わせてしまうのはよくないかもしれないが。
- 「あなた」という文字があると自分のことかもしれないと思って、気になるかもしれない。
- 直接的なアプローチで広告をつくっても対象者は自分ごとと感じにくいと思うので、ヘイトスピーチという言葉を直接使うのではなくても良いと思う。以前、AC ジャパンのテレビ CM で声が流れて「この声は男性ですか、女性ですか」と問いかけるものがあったが、そうした内容だと考えさせられる。そのように見た人に気づかせるようなアプローチをすることが大事だと思う。
- 官僚はもっと頭を柔らかくした方が良いと思う。

以上

【対面】3班（高校生世代3名）

1. ヘイトスピーチが行われる背景

○ヘイトスピーチを目にしたことがあるか

○ヘイトスピーチはなぜ行われるのか、また、なぜなくなるのか、思う理由を教えてください。

- ニュースで耳にすることはある。デモ行進をしているニュースを見た記憶がある。
- 最近では、東京都知事選の時に、ある候補者が街頭演説で「外国人の生活保護を撤廃しろ」と発言しているのを YouTube で見た記憶がある。民間のテレビ局が YouTube にアップロードしているニュースなどネットで見ることもある。
- 自分が通っていた小学校では、ハーフの人や外国人がいじめられているのを見た。いじめの内容は、「～人だ」という悪口や、その子が触ったものは触らないようにするなどだった。ただ、最初は日本語を話せていなかったのに、卒業する頃には話せるようになっていたのすごいなと思っていた。日本は島国で外国人が入ってくるのが少なかったというもあり、外国人が日本に入ってくることを歓迎しない雰囲気がある。例えば、公立の中学校では、エリアによっては日本人より外国人の生徒の方が多いことがあるが、その場合、日本人の保護者が PTA をしなければならぬ確率が高くなるので、ネガティブなイメージを持つこともあるようだった。自分の身近にいた外国人の同級生は中学受験する子の中でもかなり勉強している方で、日本人に対して見返そうという気持ちで努力していたのすごいなと思った。
- 外国人が多い地域は、周りから隔離されている雰囲気がある。自分の地元にもブラジル人が多く、小学校でいじめなどは起きていなかったが、外国人に対して偏見を持っている人はいた。一部の外国人が畑の作物を勝手に取ってしまったり、日本人とは違う行動をとってしまったりすることが原因なのかもしれない。外国人の悪い面ばかりに目を向けるのではなく、良い面にも目を向けるようにしないと、外国人に対する考え方は変わらないかなと思う。ヘイトスピーチの対象となるような人々は「こういうことを自分たちはやっているよ」と良い面を周りに共有することは大切だと思う。
- 地理の授業で、北方領土や竹島、尖閣諸島が他国に占領されているか、されかけていると学んだが、それが外国人に対する偏見を生んでいるのかなと思う。他国の政府が占領をしているからといって、その国の全員が悪いわけではない。政府と国民は分けて考えよう、ということを生徒にもっと伝えたいと思う。
- 外国人が日本で犯罪を起こしたことにに対してヘイトスピーチが起きているのであれば、日本に移住した外国人に対する生活支援をするのが良いのではないかな。日本は外国人に対する経済的支援があまり手厚くないと思う。外国人が日本人にやさしくなれるような仕組みをつくれれば、お互いを理解して支え合えるような関係性ができると思う。例えば、外国人が出身国の料理やファッションでイベントに出店など文化的な交流を行うのはありだと思う。
- 日本では、幼いころから派閥やスクールカーストがあるので、大人になっても日本人と外国人を分けて考えてしまう。それが「やっぱりあの人たちは違うんだ」と区別することにつながるのかもしれない。例えば小学校6年生頃から「陽キャ」「陰キャ」というレッテルを貼って、優劣をつけたがる雰囲気を感じるが多くなった。
- 今通っている学校では、グループ分けをしたがる空気はあまりないが、小学校のときはよく感じた。
- スポーツができたり、顔が良かったり、明るかったり、クラスの中で力を持ちそうな人たちはグループをつくるが、

静かな子はそのグループに近づきづらくなる。また、力を持ちそうな子がストレス発散として静かな子を攻撃することもある。

- 今通っている学校には帰国子女が多く、国籍も多様である。国籍でグループが分かれるというより、内面でグループが分かれているように感じる。小学生より中高生のほうが忙しいから、暇や余裕がない。公立中学校で部活が強制されているのは、悪いことをする暇をなくすためなのかもしれない。
- 「〇〇人はこう行動する傾向がある」という考え方が広まると、もともとそうは考えていなかった人も、広まっている考えに影響を受けてしまう。一人ひとりに目を向けないと差別につながってしまうと思う。日本でも部落差別があったと聞かすが、それもヘイトスピーチに含まれるように思う。

2. 現在行っている／今後の取組について

○背景を踏まえ、法務省が実施しているヘイトスピーチの解消に向けた啓発活動（ポスター・啓発マンガ・啓発動画・SNS発信等）について、良いと思う点・もっとこうした方が良いと思う点を教えてください。

○背景を踏まえ、ヘイトスピーチを解消するために、今後、国・地方公共団体は、それぞれどのような取組を行っていくことが必要だと思いますか。

- ポスターを駅前で見たとある。
- ポスターを見ても内容がよく分からない。「そもそもヘイトスピーチとは何？」と思う人が多いと思う。ヘイトスピーチの説明もポスターに含めないと伝わりづらいと思う。
- 身近では見かけないので、自治体などにポスターを掲示してもらわないと普及しないように思う。
- 「外国人差別を許さない」に変えたほうが分かりやすいと思う。
- 「何がヘイトスピーチにあたるのか」と、「ヘイトスピーチによってどのような人が傷ついているのか」が書かれていると良いと思う。
- 学校の授業ではヘイトスピーチについて取り扱われないので知らない子どもが多い。文部科学省と連携してヘイトスピーチについてどういう取組をすべきかを考えることを教育課程に取り入れられると良いと思う。
- 「憎しみは憎しみでは癒されない」という好きな言葉がある。ヘイトスピーチをしている人たちは、何らかの形で外国人から嫌な目に合わされたのだと思う。だからこそ、「憎しみは憎しみでは癒されない」というような言葉をポスターなどで書けば、「そうだな」と思いヘイトスピーチをすることを思いとどまれるかもしれない。
- 自分の学校では選択授業で韓国語やフランス語、中国語を学べるが、外国語を話せる人は一目置かれるなど他人との違いを素敵だと思えるような環境にある。また、帰国子女の中に外国に住んでいた子がいて、朝礼やホームルームでその国の様子の説明を受けたり、現在の状況について考えたりする機会があった。他国のことを考える時間を設けることが必要なのかもしれない。
- ポスターのアイデアを募集したら面白いかもしれない。
- 自治体と協力するのもいいが、鉄道会社と協力して電車内にポスターを貼れば、暇な時に車内を見る人の目にとまって良いかもしれない。また、様々な公共施設にポスターを貼ってもらうのもありかもしれない。
- ヘイトスピーチについての理解が定着するのは良いが、ポスターを貼りすぎると見慣れてしまいあまり目を向けられなくなるような気がする。SDGsという言葉も広まったが、企業が使いすぎているせいで「一人ひとりが行動しよう」という雰囲気にはなっていないと感じている。

- 広告がワンパターンなので、ヘイトスピーチという言葉を変えたり、見せ方にバリエーションを持たせたりした方が効果的だと思う。
- ポケモンのような人気キャラクターとコラボしたり、YouTuber を起用したりすることで発信力を高め、興味を持ってもらうようにしたら良いかもしれない。
- 現在の内容のポスターはみんなが思いつきそうなので、裏をかいて、「日本人出ていけ！」と書くと目にとまると思う。さらに、「自分たちがやられたらどう思う？」と問いかけると良いかもしれない。
- 広報物に人物をもっと登場させた方が良い気がする。最近見た東京都の選挙告知ポスターは俳優が載っていて印象的だった。数年前までのポスターは印象に残っていなかったので、人が入っていると印象に残りやすいのだと思った。
- 啓発動画に難しい言葉が多く使われているので、対象を分けて動画を作成したほうが良いかもしれない。例えば、高齢者向けには動画の速度を遅くする、若い人向けにはおしゃれな感じにするなど考えられる。
- アニメーション形式の動画にすれば印象に残る気がする。
- 啓発マンガは良いと思ったが、配られている印象があまりない。学校でも配った方が良いと思う。
- 市の雑誌などにもヘイトスピーチについて掲載し、積極的に世間に知らせていけると良いと思う。一度でも目にするだけでも違うと思う。
- ヘイトスピーチ撲滅月間などはあるのだろうか。ヘイトスピーチのことをテレビで取り上げたり、専門家が詳しく解説したり、電車で広告を打ったりすると良いと思う。「強化月間」のように肩書を付けたほうが活動もしやすいと思う。
 - 法務省回答：強化月間はない。ただ、ヘイトスピーチ解消法が施行された6月に集中的に広報するようにしている。
- ヘイトスピーチをするほどの人は何らかのトラブルを抱えて恨みを持っていると思われる。ヘイトスピーチを受ける側だけでなく、ヘイトスピーチをしてしまう側にもトラブルを解決するための相談窓口などのサポートがあると良いと思う。パパ活の話になるが、パパ活を禁止しても、パパ活をしている人が経済的困窮などの問題を抱えている以上、根本的な解決にはならないと本で読んだことがある。外国人を対象としたヘイトスピーチも含めて周知しているのであれば、全て日本語で書かれていることに違和感がある。外国語で併記すると、ヘイトスピーチを受けている人にも「解消しようとしてくれているんだ」と思ってもらえるようになると思う。

以上